【ねがいましては】

平成１９年２月２７日
第１９６号　　*KYOWA　SCHOOL*

「科学センター」

私の小学校５・６年時代、地域の４つの小学校からそれぞれ代表者が４人くらいですか、集まって自由に研究を行うという活動を行なっていました。内容は科学的なものについて研究し発表するというものでした。当然各学校の顧問的先生がお一人つくわけですが、私の小学校の先生はわりと放任主義であったように思いました。捉え方Ａ「自由にやっていいんだよ。」捉え方Ｂ「私は忙しいからあなたたちにかまっていられません。」

というわけでまったくノータッチ状態であったわけです。そしてどんどん発表の日は迫ってきます。わたしもどのような研究をしてどのように発表するのかなどまったくわかりません。同じく科学センター委員に選ばれた仲間の生徒たちもちんぷんかんぷん・・・。とりあえず代表であった私は苦し紛れの策を使ったわけです。題名は「日光と生命について」というものでしたか・・・。ふたつの水槽に金魚を放し、片方には黒い布をかぶせ、片方には日光を当てて日々様子を見る。その結果布をかぶせていた方の水槽の金魚はかぶせていない方の金魚よりも早めに死に至るというものでした。

実はこれ、真っ赤な作り話であるわけで、ひとつの命も奪ってはいなかったのです。つまり『大嘘つき』をしたわけです。もう何をやってよいかわからない状態で追い詰められての行動でした。それぞれの学校の発表がおわり、最後に主催校の校長先生のお言葉・・・「なるべくなら金魚さんの命がなくならない実験にしてほしかったです。」それを聞きわたしはニコニコしながら「ハイ！」・・・・。

そばにいた違う小学校の生徒がおもわずこちらを向いて「ざまーみろ」というような薄ら笑いを浮かべていたのを今でも覚えています。

これひょっとすると軽いトラウマなのかもしれません。今思えば、他人に責任を転嫁していたものと思います。あの担当の先生はぼくたちに何もしてくれない・・・けちな先生だ。そのように思い、発表がなかなかまとまらないのは先生のせいだ・・・。それに近い気持ちは多少あったものと思います。もしあの時、他人を頼ることなく前向きに動いてみようの気持ちがあればまったく違っていたと思います。

この感覚を今の子どもたちの勉強に置き換えてみましょう。

『塾へ行かせているのだからしっかりと成績を上げてくれるだろう』・・・親の感覚

『塾へ行っているのだからしっかりと教えてくれるだろう、自分はただ座っていればいいんだ。』・・・子の感覚

両者とも受身であるわけです。そして次の段階、「あまりしっかり教えてくれないのね。もっとしっかりと管理してくれるところはないかしら・・・今までの授業料が無駄だったわ・・・。」これに近い気持ちが出てくるものと思われます。

私がこだわりたい部分は『きもち』、屈託のない前向きな気持ちを幼少の頃から培うこと。自分から積極的にわからない部分を見つけ、自分が立ち上がって先生のところへ行き質問すること。自分から積極的に立ち上がって辞書やインターネットで調べること。この習慣化がある意味とても大切ではないかと思われます。学校社会ですと常に他人の目があるわけで、『でしゃばり』だとか『目立ちたがり屋』などのレッテルを貼られてしまいがちです。しかしどう考えてもわからないから質問しているわけで、このふたつの気持ちなどどこにもないのが自然です。

なかなか理想を前面に出すことが難しい社会なのですが、子どもたちの真っ白な汚れのない心を見るたびに、成績で格づけされ、こころに元気を失ってしまった子たちを見るたびに何とかしてあげたいと思ってしまいます。またそれなりにしっかりと勉強に理解を示している子が、積極的にわからずにいる子に手を差し伸べている光景も夢見てしまいます。

私たち大人でさえも小学校時代、中学校時代、高校時代・・・・。間違いなく一度は抱いた気持ち・・・。
テストの答案が返却されるときのことです。定期テストの成績順位が発表されるときのことです。
『どうかあいつよりもオレの方が良い点でありますように・・・どうかあの子よりも順位が上でありますように』
この気持ち、人の不幸を心の底から願う気持ちであるわけで、言葉にはまったく出しませんが、心の中ではしっかりと願っているわけです・・・・・。この気持ちを抱いたまま生活できる場所があります。お日様が燦々と明るい日差しを窓から注ぎ込む中、毎日のように同様の気持ちを抱きながら生活する子どもたち、何が良くて何が悪いことなのか、これを考えること自体がアホらしい状況になっているようでしかたありません。

心をホカホカさせながら生活できる空間の中、「くりたのランチ講習」や普段の授業の中で見られる光景を見、「いや、目頭を押さえたくなる光景だってしっかりあるぞ」と、ちょっぴり意地を張りながら歩んでまいりたいと思います。先日この教室の卒業生である「Ｊ」ちゃんが来てくれました。彼女は小学校時代にとことん勉強恐怖症になってしまった子にやさしく教えています。みるみる変わる表情、心が前を向き始めるのがよくわかります。

心が前を向くこと、人と比べるような勉強はしないこと・・・ですね。

『助け合う勉強』『励ましあう勉強』を見たくて、今日もみんなの協力よろしくおねがいします。